



# 和泉中央病院

(平成28年11月21日訪問)

平均在院日数243.9日（平成28年10月31日時点）

## 積極的な取り組みなど

- 食事については「朝食も種類がたくさんある。パンと飲み物とデザートとスープかサラダ」との声や、多くの患者から「おいしい」との声があった。
- 各病棟でOTの案内やレクレーションの際の写真入りの報告、出勤している職員とその病棟の職員の写真と職種と名前の一覧等が掲示されていた。

## 前回の訪問（平成24年1月）から改善されていた点、未改善点等

- 前回の訪問時、任意入院の閉鎖処遇の多さについて検討していただきたいと伝えた。前回（平成23年12月31日時点）は、任意入院患者70名のうち院外まで外出できる患者は44名、院内のみ外出できる患者が4名、今回（平成28年10月31日時点）は、任意入院患者57名のうち院外まで外出できる患者は45名、院内のみ外出できる患者が5名だった。任意入院の患者数が大きく減っていて、開放処遇の人数はあまり変化がなかったため、結果として、任意入院で閉鎖処遇の患者の割合は減少した。

## 病院全体

前回訪問時（平成24年1月）以降、精神療養病棟が2床減り、急性期治療病棟が2床増えた。

## 意見箱

各病棟に意見箱、回答を綴ったファイルがあった。意見箱のそばには「どのような内容でも結構です。いろいろなご意見をお待ちしています」との掲示があった。投書は毎日、看護部長が回収し、院長が内容を確認後、医療改善サービス向上委員会（月1回開催、委員長は年度によって担当する部署が変わる）や人権医療倫理委員会で検討し、月毎に回答を作成している。

## 金銭管理

病院に預ける場合の管理料は1日103円。病院管理は、1・2病棟ではほぼ全員、3病棟では31名中5名、5病棟では51名中28名だった（10月31日時点）。売店では伝票か現金で購入する。

## 面会

各病棟に面会室があった。面会時間は10時～16時。1・2病棟では土日の面会が多く、10名位の患者の家族が面会に訪れるとのことだった。

## 入浴

1病棟では介助が必要な患者は週2回、自立している患者は週3回。2病棟では週2回、3・5病棟では週3回だった。

## アロマセラピー

1年前からアロマセラピーを導入し、研修を受けた職員が、入浴後の患者に対してフットマッサージをすることもあるとのことだった。送迎バスや病棟内ではトイレでアロマの香りがした。

## PSW・退院支援

法人内にPSWは10名おり、病棟担当は4名。その他はデイナイトケア、重度認知症デイケアや宿泊型自立訓練施設やグループホーム、相談支援事業所等を担当している。病院敷地内に宿泊型自立訓練施設（定員20名）、車で10分程度離れたところに府営住宅等を使ったグループホームが8名分ある。宿泊型自立訓練施設への入居後は高齢者施設や法人内外のグループホームへの入居、再入院ということもある。平成27年に法人内のグループホームができ、退院支援がしやすくなったとのことだった。

医療保護入院者退院支援委員会に、患者が参加する割合は約半分。認知症患者については、ほとんどの場合は、患者本人ではなく家族に参加してもらっているとのことだった。退院後生活環境相談員はPSWが担っている。

## 病棟の様子

### 電話

全てテレホンカード専用の公衆電話だった。1病棟は詰所カウンター、2病棟は面会室、3・5病棟はデイルーム内の個室にあった。1・2病棟はテレホンカードは詰所預かりだった。

携帯電話は、写真を撮らない等のルールを守ることを約束すれば持ち込むことができる。3病棟では病室で携帯電話を見ている患者や「手元に持っている。充電は詰所でもらう」と言う患者がいた。



## 病室

個室と 2 床の部屋もあるが、4 床と 5 床の部屋が中心だった。1・2 病棟では床頭台やロッカー付きのベッドもあるが、基本的に患者の私物は詰所で管理され、ロッカーも施錠せずに使用する。

3 病棟ではベッド横の床頭台と詰所横に貴重品入れのロッカー、5 病棟ではベッド横に床頭台があった。鍵は持っている患者と持っていない患者がいた。ロッカーや鍵に使用料はかかるない。

## ブザー

各病棟の出入口の扉が開くとブザー音が鳴った。患者から「大きい音が気になる」等の声があった。訪問後の意見交換でブザーについておたずねしたところ、「無断離院を防ぐために各病棟出入口にブザーを付けた。鳴るタイミングや鳴っている長さ、音量の設定は急性期治療病棟と開放病棟と同じではなくてもよいと考えたが、同じにしか設定できない。いろいろ試して今の設定にしている」とのことだった。

## 第 1 病棟 閉鎖 男女 認知症病棟 60 床

治療・機能回復訓練に力を入れているとのことだった。機能回復訓練での散歩やレクレーションで外出することがある。介助の必要な患者も多く、参加人数が限られるので、事前に案内し、家族に参加してもらうことで、より多くの患者が参加できるようにしていた。

訪問時はデイルームで OT のカラオケが行われていて、約 10 名が参加していた。他の患者は塗り絵等を行っていた。職員が丁寧に声をかけながら患者をおむつ交換場所やトイレに誘導していた。病室でポータブルトイレをあまり見かけなかった。

## 隔離室（3 室）

訪問時は全て使用していた。脱衣してしまう患者と、静かな場所の方が落ち着くので、施錠せずに個室として使用している患者とのことだった。

## 第 2 病棟 閉鎖 男女 精神療養 58 床

訪問時は 48 名が車椅子を利用していた。水分摂取の時間が近づいていたためか、ほとんどの患者がデイルームのテーブルの前に座って待っていた。多くの患者がリースの服を着ていた。

月に 1 ~ 2 名退院するが、退院先は施設か精神科以外の疾患治療のための転院がほとんどのこと。

外出は、家族か職員が同伴するときや、OT でいくつかのグループに分けて職員同伴で散歩に出るときなど。SST に参加している 4 名の患者は、PSW と一緒に喫茶店等に出かけることもある。

## 隔離室（2 室）

トイレは和式で水洗は外からになっていた。隔離室には比較的若い患者が入り、歩行が困難な高齢患者は、詰所に近い病室で対応しているとのことだった。

## 患者の声

「ケースワーカーとは話ができる。名前も知っている。退院については話を聞いてくれた」「外出する機会がもっと欲しい」

## 第 3 病棟 閉鎖 男女 急性期治療 37 床

詰所とデイルームを中央にして、左右に男性ゾーン、女性ゾーンがあった。夜は男女で仕切られる。

デイルームでは 10 名弱の患者がテレビを見る等して過ごしていた。廊下沿いのソファに座っている患者や病室で過ごしている患者もいた。病室はカーテンが閉まっている所が多かった。

## 隔離室（4 室）・個室（3 室）

隔離室 4 室は廊下沿いにあり、扉を開けると洗面台のある前室になっていた。隔離室内にはモニターカメラがあり、ナースコールはトイレ横にあった。トイレの水洗は切り替え式だが、トイレから出てしばらくするとセンサーにより自動で流れる。外向きの窓は大きめで中は明るかった。窓は二重で手前の窓の鍵を開けるとカーテンがあり、開閉できる。

個室 3 室は外から施錠できるが、施錠して使うことはほぼない、個室として使用する場合には差額ベッド代がかかり、空いていることが多いとのことだった。窓にはカーテン、トイレには扉が付いていた。

## 患者の声

「風呂は毎日入っている。入る時間は日によって違う」「入院して幻聴は少しましになってきた。金銭管理は自分で、ロッカーに財布を入れている。売店はスーパーより値段が高く、品数も少ない」「洗濯は自分でして。ヘルパーにもらっている人もいる。2 回、面会に来てくれた」「カーテンは昼間開けていて、寝るときだけ閉める。高齢者が多く、そんな人は外の散歩はしない」「携帯は家族が解約してしまったので、持っていない。テレホンカードは持っている」「入院した時は隔離室に入れられた。カメラがあった。何やろ?と思った」「患者 3 ~ 4 名に職員がついて売店に行くことができる」「外出はまだ駄目と言われている。1 週間後に、院内の自販機までは外出していいと言われている。11 月いっぱい退院させて欲しいとお願いしたが、まだ早すぎると言われた」

## 第 5 病棟 開放 男女 精神療養 51 床

長期在院の患者が多いようだった。外出できる患者は、バスを使って駅前や、徒歩でローソンに行っているとのことで、訪問時も数名の患者が慣れた様子で詰所を通って外出していた。外出制限はなくとも外出しない患者、外出制限のある患者には、年 3 回程、外出プログラムを実施している。それ以外にも週 2 ~ 3 回は 3 時頃に売店や中庭に散歩に行く機会を持つようしているとのこと。  
病棟内では、デイルームでテレビを見る患者、廊下にしゃがんでいる患者、ソファで話している患者、病室で過ごす患者等様々だった。



## 患者の声

「入院して 4 年。外出はおやつを買いに売店に行くぐらい。11 月 3 日にバスでみかん狩りに行った。楽しかった」「お金は自己管理。外とは公衆電話で話している。家族が週 2 回、洗濯物を取りに来てくれる」「ヘルパーや看護師は親切にしてくれる。売店には毎日行く」「前にいた病院では患者同士が病気について語り合うプログラムがあったが、ここではない。そういうことをしてほしい」「薬のこと、これからのこといろいろ聞きたいが、診察では待っている人もいるし、ゆっくり聞いてもらえる時間はない」「週に 1、2 回、売店で買物するのが楽しみ。伝票で買う」「自分は入院して 1 年程だが、長期の患者も多くいる。きれいな 3 病棟からここに移ってきた時には、建物やデイルームの椅子や病室のベッドの古さにショックを受けた」

## 検討していただきたい事項

### 禁止や制限への説明について

複数の患者から「外出したい」との声があり、外出ができない理由を聞くと「(主治医から) 説明を受けていない」「聞いてもいいのか」という回答が多かった。また、「シャンプーの貸し借り、売店で購入したものを分け合うことについて『あかん』と言われ、理由を聞くと『ルールだから』との説明だった。納得いかないがそれ以上聞けない」との声があった。( 病院 : 物品の貸し借りについては病状で判断能力が低下している患者が多く、患者間のトラブルとなるため、入院時、説明しています。理解が十分出来ない患者については「ルールだから」ではなく、患者に応じた説明をしていくよう職員へ再度指導していきます。)

### 意見箱の説明について

投書件数が多くなかった(検討された投書件数は 9 月 1 件、8 月 0 件、7 月 2 件、個人的な内容のものは同じ時期で 12 ~ 22 件)。患者からは「『外出したい』と入れても返事は返ってこなかった」「どんな事を入れたらいいのかよくわからない」との声があった。( 病院 : 意見箱の投書後の流れや改善事例をわかりやすく掲示し、回答ファイルにも綴じて、患者に啓発していくようにします。)

### 退院に希望の持てる情報提供や支援を

患者から「任意入院で、退院に向けての計画書も渡されている。ただ、主治医は通院のときはよく話を聞いてくれたが、入院するあまり聞いてくれない」「外出届の許可が下りない。病名はまったく

知らされていないで、ただ『入院が必要』とだけ言われている」、また複数の患者から退院できない理由を「主治医から説明を受けていない」「聞いてもいいのか。聞いていいことだとは知らなかった」との声があった。

(1) 入院治療の目的と治療方針及び入院期間の目途等について、患者が十分に理解し納得できるように説明をしていただきたい。( 病院 : 病状に応じた説明・対応を心掛けるよう職員へ指導していきます。)

(2) 退院は、必ずしも家族と同居することがその条件ではないこと、地域には単身生活をサポートする社会資源があること、そのようなことについて相談し、援助するために PSW 等がいることについて、積極的に情報提供していくことを検討していただきたい。( 病院 : 相談窓口の職員表記をよりわかりやすくするよう検討いたします。)

### プログラムについて

複数の患者から「プログラムが少ない」「病気を語り合うプログラムが欲しい」との声があった。( 病院 : オレンジカフェ、家族教室や SST の退院支援プログラムなどを行っている。外来モニターの活用や配布物を多くして、積極的に広報していきます。)

### 意見箱の設置場所と掲示物について

1 病棟では掲示物は多くあったが、意見箱の設置場所が病棟外の面会スペースであった。2 病棟では、意見箱は病棟内にあったが、掲示物は少なかった。1 病棟で意見箱が病棟内に置けない理由、2 病棟で掲示物が少ない理由はそれぞれ異食防止とのことだった。( 病院 : 第 1 病棟の意見箱は、病棟入口の面会スペースに設置され、患者・家族が一緒に過ごす場所にあり、投書しやすい環境を作っているが、今後はよりわかりやすい表示を検討していきます。)

### 精神保健福祉資料より (平成 28.6.30 時点)

188 名の入院者のうち認知症など症状性を含む器質性精神障害が 115 名 (61%)、統合失調症群が 48 名 (26%)、気分障害が 12 名 (6%)。入院形態は任意入院 57 名 (30%)、医療保護入院 131 名 (70%)。在院期間は 1 年未満が 92 名 (49%)、1 年以上 5 年未満の患者が 76 名 (40%)、5 年以上 10 年未満の患者が 11 名 (6%)、10 年以上 20 年未満が 5 名 (3%)、20 年以上が 4 名 (2%)。



扉よひらけ⑦

大阪精神科病院事情ありのまま 2015

クリック

210ページのうち 192ページ ほどは 大阪府内の精神科病床のある全病院への訪問活動の報告です。

A4 サイズ / 210 ページ  
2,000 円

## 目次

- ・大阪における精神科病院への訪問活動のうつりかわり
- ・療養環境サポーター制度について
- ・各病院の訪問報告
- ・各病院の職種別職員数一覧表
- ・精神科病院訪問ボランティアへのインタビュー
- ・入院中の精神障害者の権利に関する宣言

療養環境サポーター  
最新報告

## 人権センターニュース毎号 2 病院掲載中

## 入会やご寄付のおねがい

私たちの財政的基盤の中心は「会費」や「寄付」となります。活動を維持し、充実させるためには、皆様からの支援が必要となります。



電話・面会相談では相談者の方からお金を頂いておらず、訪問活動（療養環境サポーター制度）でも大阪府等から委託費用の支払はありません。特に面会活動の拡充のためには、交通費（1回 2,000 円～4,000 円／2名分）や複数の事務局スタッフの人事費（年間約 500 万円）が必要となります。

## 会費・寄付の申込と支払方法

ご寄付もいつでも受付けています。

## 会員種別 年会費

|     |         |
|-----|---------|
| 障害者 | 1,000 円 |
| 個人  | 3,000 円 |
| 団体  | 5,000 円 |

特別協力会員 & 寄付  
大募集

|   |          |
|---|----------|
| A | 10,000 円 |
| B | 30,000 円 |
| C | 50,000 円 |

## 会員特典

人権センターニュースの送付

2か月に1回 年間6冊

人権センターニュースは、「声をきく」ことを重要な価値観とする私たちだからこそ発信できる情報が盛りだくさんです。また、病院訪問報告書も毎号2病院掲載しており、大阪府内の病院の療養環境の改善状況等をることができます。当事者・家族の皆様だけでなく、精神科病院に勤務する皆様や地域精神医療保健福祉にかかわる皆様にも必見です。



メルマガ配信 1か月に1回から2回

精神医療及び精神保健福祉にかかわる最新ニュースや私たちの講演会・セミナー情報等をいち早くお知らせします。

活動参加の方の情報提供

面会活動だけでなく、講演会の企画・運営や広報誌・SNSによる情報発信のサポート等いろいろな形で参加できます。

※面会活動は養成講座の受講が条件となります。

## 寄付特典



税額控除とは？

ご寄付をしても  
税額控除を受け  
られる場合、  
確定申告によって  
『税額控除』を受ける  
ことができます。

\*確定申告は最寄りの税務署に  
ご相談ください。\*大阪府（本市を除く）に在住  
の方は、地方税のみ控除されます。\*控除には限度額があり、実際の  
税額はケースにより異なります。

10,000円のご寄付で、2～3名の面会が可能になります。

寄付金 1万円の時

所得税額 -3,200円

実質負担  
6,800円

寄付金 5万円の時

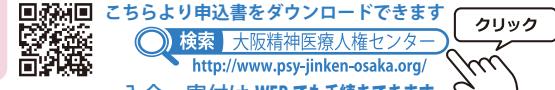
所得税額 -19,200円

実質負担  
30,800円郵便払込 口座番号 00960-3-27152  
加入者名 NPO 大阪精神医療人権センター

銀行振込 三井住友銀行 南森町支店 普通 1485805

現金 講演会会場・事務所にて

クレジットカード ウェブサイトのみ



こちらより申込書をダウンロードできます

検索 大阪精神医療人権センター

<http://www.psy-jinken-osaka.org/>

入会・寄付は WEB でも手続きできます。



## 認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター

お問い合わせ

〒530-0047 大阪市北区西天満 5-9-5 谷山ビル 9F

TEL 06-6313-0056 FAX 06-6313-0058 メール [advocacy@pearl.ocn.ne.jp](mailto:advocacy@pearl.ocn.ne.jp)